

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

(有)エイブル 生コン工場 殿

2023年 4月 1日

有限会社 エイブル 生コン工場

広島県三次市高杉町1470番地の3

TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909

配合計画者:片山 一夫

工事名称	自社
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準配合 4月1日～6月20日 9月11日～11月20日 (標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ°又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 — °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	— %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28 日		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5±1.5 %		流動化後のスランプ増大量	— cm

## 使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.53	2.56	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10mm	6.90	—	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	15～5mm	6.30	—	2.63	0.5±0.5
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	フローリックSV10L		種類	A E減水剤		Na <sub>2</sub> Oeq %	1.0		
混和剤②		—			—			—		
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	— %	水の区分	上澄水		目標スラッジ固形分率	— %	
回収骨材の使用法	細骨材	—		粗骨材	—		安定化スラッジ水の使用の有・無			

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	515	356		437	437		2.72	
水セメント比		52.0 %		水結合材比		%		細骨材率		50.3 %

## 備考

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

# レディーミクストコンクリート配合計算書

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフォー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	$\alpha$	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22$ $\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100/3.0}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.25 \times 27 = 33.8$			33.8 N/mm <sup>2</sup>
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{33.8 + 13.40} \times 100 = 52.3$			52.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			177 kg/m <sup>3</sup>
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{177}{52.0} \times 100 = 340$			340 kg/m <sup>3</sup>
	Cv	$Cv = C \div \text{密度} = 340 \div 3.04 = 112$			112 ℓ/m <sup>3</sup>
空気量	A	$A = \text{設計容積} \times \text{空気量}(\%) = 1000 \times 4.5(\%) = 45$			45 ℓ/m <sup>3</sup>
骨材の絶対容積	Va	$Va = \text{設計容積} - (W + Cv + A) = 1000 - (177 + 112 + 45) = 666$			666 ℓ/m <sup>3</sup>
細骨材率	s/a	当工場の実績により			50.3 %
単位細骨材量	Sv	$Sv = Va \times s/a(\%) = 666 \times 50.3(\%) = 335$			335 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv1	① $Sv1 = Sv \times 60(\%) = 201$			201 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv2	② $Sv2 = Sv \times 40(\%) = 134$			134 ℓ/m <sup>3</sup>
	S1	① $S1 = Sv1 \times \text{密度}(2.56) = 515$			515 kg/m <sup>3</sup>
	S2	② $S2 = Sv2 \times \text{密度}(2.66) = 356$			356 kg/m <sup>3</sup>
単位粗骨材量	Gv	$Gv = Va - Sv = 666 - 335 = 331$			331 ℓ/m <sup>3</sup>
	G	$G = Gv \times \text{密度}(2.64) = 874$			874 kg/m <sup>3</sup>
	G1	① $G1 = G \times 50(\%) = 437$			437 kg/m <sup>3</sup>
	G2	② $G2 = G \times 50(\%) = 437$			437 kg/m <sup>3</sup>
単位混和剤量	AE	$AE = C \times \text{添加率}(\%) = 340 \times 0.80(\%) = 2.72$			2.72 kg/m <sup>3</sup>

### 配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	515	356		437	437		2.72	
水セメント比		52.0 %	水結合材比			%		細骨材率	50.3 %	

備考

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

(有)エイブル 生コン工場 殿

2023 年 4 月 1 日

有限会社 エイブル 生コン工場

広島県三次市高杉町1470番地の3

TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909

配合計画者:片山 一夫

工 事 名 称	自社
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	夏季修正標準配合 6月21日～9月10日 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指 定 事 項 ( 必 須 )	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指 定 事 項 ( 任 意 )	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 — °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	— %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28 日		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5±1.5 %		流動化後のスランプ増大量	— cm

## 使 用 材 料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	—			
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
骨 材	No.	種 類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細 骨 材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.53	2.56	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗 骨 材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10mm	6.90	—	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	15～5mm	6.30	—	2.63	0.5±0.5
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	フローリックRV10L		種 類	A E 減水剤		Na <sub>2</sub> Oeq %	0.9		
混和剤②	製品名	—		種 類	—		%	—		
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	— %	水の区分	上澄水		目標スランプ 固形分率	— %	
回収骨材の使用法	細骨材	—		粗骨材	—		安定化スラッジ水の使用の有・無			

配 合 表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	515	356		437	437		3.40	
水セメント比		52.0 %		水結合材比				細骨材率	50.3 %	

## 備考

骨材の質量配合割合, 混和剤の使用量については, 断りなしに変更する場合がある。

# レディーミクストコンクリート配合計算書

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ又はスラブフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	$\alpha$	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22$ $\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100/3.0}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.25 \times 27 = 33.8$			33.8 N/mm <sup>2</sup>
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{33.8 + 13.40} \times 100 = 52.3$			52.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			177 kg/m <sup>3</sup>
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{177}{52.0} \times 100 = 340$			340 kg/m <sup>3</sup>
	C <sub>v</sub>	$C_v = C \div \text{密度} = 340 \div 3.04 = 112$			112 ℓ/m <sup>3</sup>
空気量	A	$A = \text{設計容積} \times \text{空気量}(\%) = 1000 \times 4.5(\%) = 45$			45 ℓ/m <sup>3</sup>
骨材の絶対容積	V <sub>a</sub>	$V_a = \text{設計容積} - (W + C_v + A) = 1000 - (177 + 112 + 45) = 666$			666 ℓ/m <sup>3</sup>
細骨材率	s/a	当工場の実績により			50.3 %
単位細骨材量	S <sub>v</sub>	$S_v = V_a \times s/a(\%) = 666 \times 50.3(\%) = 335$			335 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>v1</sub>	① $S_{v1} = S_v \times 60(\%) = 201$			201 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>v2</sub>	② $S_{v2} = S_v \times 40(\%) = 134$			134 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>1</sub> S <sub>2</sub>	① $S_1 = S_{v1} \times \text{密度}(2.56) = 515$ ② $S_2 = S_{v2} \times \text{密度}(2.66) = 356$			515 kg/m <sup>3</sup> 356 kg/m <sup>3</sup>
単位粗骨材量	G <sub>v</sub>	$G_v = V_a - S_v = 666 - 335 = 331$			331 ℓ/m <sup>3</sup>
	G	$G = G_v \times \text{密度}(2.64) = 874$			874 kg/m <sup>3</sup>
	G <sub>1</sub>	① $G_1 = G \times 50(\%) = 437$			437 kg/m <sup>3</sup>
	G <sub>2</sub>	② $G_2 = G \times 50(\%) = 437$			437 kg/m <sup>3</sup>
単位混和剤量	AE	$AE = C \times \text{添加率}(\%) = 340 \times 1.00(\%) = 3.40$			3.40 kg/m <sup>3</sup>

## 配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	515	356		437	437		3.40	
水セメント比		52.0 %	水結合材比			%		細骨材率	50.3 %	

備考

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

(有)エイブル 生コン工場 殿

2023 年 4 月 1 日

有限会社 エイブル 生コン工場

広島県三次市高杉町1470番地の3

TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909

配合計画者: 片山 一夫

工事名称	自社
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	冬季修正標準配合 11月21日～3月31日 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 — °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	— %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28 日		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5±1.5 %		流動化後のスランプ増大量	— cm

## 使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.53	2.56	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10mm	6.90	—	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	15～5mm	6.30	—	2.63	0.5±0.5
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	フローリックSV10L		種類	AE減水剤		Na <sub>2</sub> Oeq %	1.0		
混和剤②		—			—			—		
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	— %	水の区分	上澄水		目標スラッジ 固形分率	— %	
回収骨材の使用法	細骨材	—		粗骨材	—		安定化スラッジ水の使用の有・無			

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	515	356		437	437		2.04	
水セメント比		52.0 %	水結合材比			% 細骨材率			50.3 %	

備考

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

# レディーミクストコンクリート配合計算書

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ又はスラブフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	$\alpha$	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22$ $\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100 \sqrt{3.0}}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.25 \times 27 = 33.8$			33.8 N/mm <sup>2</sup>
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{33.8 + 13.40} \times 100 = 52.3$			52.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			177 kg/m <sup>3</sup>
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{177}{52.0} \times 100 = 340$			340 kg/m <sup>3</sup>
	Cv	$Cv = C \div \text{密度} = 340 \div 3.04 = 112$			112 ℓ/m <sup>3</sup>
空気量	A	$A = \text{設計容積} \times \text{空気量}(\%) = 1000 \times 4.5(\%) = 45$			45 ℓ/m <sup>3</sup>
骨材の絶対容積	Va	$Va = \text{設計容積} - (W + Cv + A) = 1000 - (177 + 112 + 45) = 666$			666 ℓ/m <sup>3</sup>
細骨材率	s/a	当工場の実績により			50.3 %
単位細骨材量	Sv	$Sv = Va \times s/a(\%) = 666 \times 50.3(\%) = 335$			335 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv1	① $Sv1 = Sv \times 60(\%) = 201$			201 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv2	② $Sv2 = Sv \times 40(\%) = 134$			134 ℓ/m <sup>3</sup>
	S1	① $S1 = Sv1 \times \text{密度}(2.56) = 515$			515 kg/m <sup>3</sup>
	S2	② $S2 = Sv2 \times \text{密度}(2.66) = 356$			356 kg/m <sup>3</sup>
単位粗骨材量	Gv	$Gv = Va - Sv = 666 - 335 = 331$			331 ℓ/m <sup>3</sup>
	G	$G = Gv \times \text{密度}(2.64) = 874$			874 kg/m <sup>3</sup>
	G1	① $G1 = G \times 50(\%) = 437$			437 kg/m <sup>3</sup>
	G2	② $G2 = G \times 50(\%) = 437$			437 kg/m <sup>3</sup>
単位混和剤量	AE	$AE = C \times \text{添加率}(\%) = 340 \times 0.60(\%) = 2.04$			2.04 kg/m <sup>3</sup>

## 配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	515	356		437	437		2.04	
水セメント比		52.0 %	水結合材比			%		細骨材率	50.3 %	

備考